

□ 次の文章を読んで後の問に答えよ。

初め私は母親のからだの中にいた。私のからだは溶け合っていた。その快さはおそらく今も消え去ることのない意識下の記憶として、私のうちに残っている。私は母親のからだから出て、私自身のからだをもったが、そのからだはともすると、母親のからだの中へ降りたがった。私は母に甘えた。

母はひとりの人間であるとともに、自然そのものでもあった。陽光に輝くならかな丘を見るとき、なまぐさい海へ歩み入るとき、肌のうぶげにこそよ風を感じるとき、はだしの足でぬかるみをかきまわすとき、私は満たされることのない(A)と渇き、畏れと親しみのまざりあつた気持ちに、B快樂と同時に苦痛を味わつた。

母と一体になりたいという欲望は、自然に溶けこみたいという欲望と区別できなかった。

(C)やがて母親は、限らない自然としてよりも、死すべきひとりの人間として、私の前に立ちふさがるようになってくる。それは私に人間社会のしきたりを教え、自然のa秩ジヨとは異なる人間の秩ジヨの中に私を組み込もうとする。私はbテイ抗し、cヨク押し、受け入れる。私のからだは母親のからだから出たように、私の心も母親の心から別れ始める。そして私は(D)。

恋とは私のからだは、もう一つのからだに会おうことに他ならない。自然と違つて人間はからだだけでないから、からだと言うとき、そのからだの宿している心は無視できないのはd勿論だが、心とからだはただことばの上で区別されるだけで、本来は(E)。しかしまたひとりひとりに独自の心は、人間特有のものであり、その心を支配し、それに支配される万人に共通なからだは、人間を超えた自然に属している。その矛盾を生きている人間であるとも言えよう。

心とからだの矛盾に満ちた関係は、人間と自然の矛盾に満ちた関係から生まれた。矛盾を生きていることで、調和を見出そうとする欲求も両者に共通なものであるとすれば、F恋もまた、人間同士の戦いであるとともに、人間の自然との戦いのひとつと見ることもできる。そこでの平和がいかに得難いものであるかは、誰もが知っている。

恋はe否応なしに自分を他人とかかわらせるが、自分の背後にも他人の背後にも人間を超えた自然が隠れている。恋する者はいつとも相手のむこうに、相手を超えたなものかを感じとつている。その奥行きが目くらませる。だがそのくらんだ目が、ふだんは見えぬものを見る。世界は新しい(G)の中でよみがえる。それが散文よりも(H)にふさわしい高まりを見せるのは当然だ。

母親から離れた私のからだ・心が母親のではないもうひとつのからだ・心に目覚めたのは、いったいいつごろのことだったろう。f工体の知れぬ欲望が、一方で私を世界美術全集にのつている大理石の裸体の映像や、幼友達とのお医者さんごっこに向かわせ、他方でひとりの小学校の同級生の女の子の、他の誰のものでもないひとつの顔に向かわせた。恋は性に支えられていたが、同時に性を超えようとするものでもあった。

目が顔に出会う、からだがからだに出会う、心が心に出会う、ことばにすれば三つの出会いとも思われかねない出会いというものも、実はひとつだ。現世で手に触れることのできるのだからただけであるとしても、ことばをもつことのできた人の心は、この世ならぬものまでを日常の中にまざまざと描き出す。人間は他者のからだ・心をgバイ介にして、自らの死を超えて宇宙に恋することができるといふことができる。どんなにh洗レンされた恋愛心理の奥にも、荒々しい自然がひそんでいるのを忘れることはできない。

私の初めての恋の詩のひとつに「……私は人を呼ぶ／すると世界がふり向く／そして私がいなくなる」という行がある。他のどんな人間関係にもまして恋はIエゴイズムをあらわにするが、同時にそれは個を超えて人を限りない世界へと導く。その喜びとi寄辺なさに恋の味わいがある。人は経験によって、また想像力の限りをつく

して、それをことばにしてきた。

ひとつのからだ・心は、もうひとつのからだ・心なしでは生きていけない。その煩わしさに堪えかねて、昔から多くの人々が荒野に逃れ、寺院に隠れたが、幸いなことにそんな努力も人類を根絶やしにするほどの力ではもてなかつた。J恋は大袈裟なものだが、誰もそれを笑うことはできない。(谷川俊太郎「日本の恋歌」)

問一 傍線部 a・b・c・f・g・hと同じ漢字を含むものを選択肢から選び、番号で答えよ。

(解答番号は【1】〜【6】)

- a 秩^レジ^ョ 【1】 1 ジジ^ョ伝を執筆する 2 選挙戦のジ^ョバン
- 3 道徳心のケツジ^ョ 4 相互フジ^ョの精神
- b テイ^抗 【2】 1 製品の売れ行きがテイ^テョウだ 2 矛盾がロテイ^シた
- 3 従業員がテイ^テャクしない職場 4 タイテイ^の人が賛成した
- c ヨク^圧 【3】 1 ヨク^ヨウをつけて話す 2 ヒヨク^な土地
- 3 学習イヨク^が旺盛な学生 4 彼が優勝候補の最ウヨク^だ
- f 工^体 【4】 1 一期イ^チ工 2 エソ^ラ事にすぎない計画
- 3 生活のチ^工 4 接客のココロ^工
- g バイ^介 【5】 1 名画をキョウ^ウバイにかける 2 バイ^リツの高い顕微鏡
- 3 祝賀の宴にバイ^セキする 4 バイ^シャクの労をとる
- h 洗^レン 【6】 1 レン^キン術 2 ジュク^レンした技術
- 3 ジョウ^ウレンと飲みに行く 4 セイ^レン潔白な政治家

問二 傍線部 d・e・iの漢字の読みについて正しいものを選び、番号で答えよ。(解答番号は【7】〜【9】)

- d 勿^論 【7】 1 ム^ロン 2 モチ^ロン 3 ロン^ナシ 4 スイ^ロン
- e 否^応 【8】 1 イヤ^マサ 2 イヤ^オウ 3 ヒオ^ウ 4 コオ^ウ
- i 寄^辺 【9】 1 ヨリ^ベ 2 ヨル^ベ 3 キヘ^ン 4 キベ

問三 空白部 A・C・D・E・G・Hに入れるべき適切なものをそれぞれ一つ選び、番号で答えよ。

(解答番号は【10】〜【15】)

- A 【10】 1 苦しみ 2 不安 3 あこがれ 4 飢え
- C 【11】 1 だから 2 ところで 3 さらに 4 だが
- D 【12】 1 母親を否定し始める 2 父親のもつ強さにあこがれるようになる
- 3 母親を踏み台にして飛躍する 4 母親に代わる存在を求める
- E 【13】 1 どちらも実在してはいない 2 一つのもんだ
- 3 別々のものだ 4 三つ以上のものから成り立っている
- G 【14】 1 文脈 2 血脈 3 一脈 4 命脈
- H 【15】 1 小説 2 フィクション 3 詩歌 4 ドキュメンタリー

問四 傍線部 Bについて、筆者はなぜ、苦痛を味わったのか、もっとも適切なものを選び、番号で答えよ。

(解答番号は【16】)

- 1 海はなまぐさかったり、ぬかるんでいたりして、自分が思い描いていたようには心地よくなかつたから。
- 2 実は、母と自然は一体化してはなくて、母とは違い、自然は常にじぶんを拒否したから。
- 3 母と一体化したいという思いと同時に、母から独立しなければならぬという思いも感じていたから。
- 4 自然と完全に一体化できた、という満足感を味わうことができなかったから。

問五 傍線部Fについて、なぜ恋が「人間と自然との戦い」だと言えるのか。適当なものを選び、番号で答えよ。

(解答番号は【17】)

- 1 恋は、人間の向こう側に潜む自然と一体化しようとする衝動をもっているから。
- 2 人は自然の恵みを受ける一方で自然と戦ってきた。それは母から自立しようとする子供と同じだから。
- 3 人が自然と戦ってきたことは、あたかも恋人を支配したり、支配されたりする関係と同じだから。
- 4 恋は他人との戦いであり、自然の中で生きることまた、自然との戦いであるから。

問六 傍線部I「エゴイズム」の意味を選び、番号で答えよ。(解答番号は【18】)

- 1 悲観主義
- 2 利己主義
- 3 形式主義
- 4 理想主義

問七 傍線部Jで、筆者は「人はどうしても恋をしてしまう」ということを述べている。筆者がそう考えている理由として適当なものを選び、番号で答えよ。(解答番号は【19】)

- 1 自分と異なる個体を求めることは自然の法則の一つであり、それに従うべきであるから。
- 2 人は孤独で不安であり、世界と一体化したいという欲望をもっているから。
- 3 男は母親を求め、女は父親を求めるがそれは叶わないため、その代替としての恋が必要だから。
- 4 異性に対する訳のわからない欲望が、自らの心の中に湧きあがり、それを抑制することができないから。

問八 筆者の谷川俊太郎は詩人であるが、彼の詩集を選び、番号で答えよ。(解答番号は【20】)

- 1 新体詩抄
- 2 月に吠える
- 3 二十億光年の孤独
- 4 表札など
- 5 落下傘

問九 次の作家の作品と、作家についての説明文をそれぞれ選び、番号で答えよ。(解答番号は【21】～【34】)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| A 小林多喜二 (作品【21】・説明【22】) | B 坪内逍遙 (作品【23】・説明【24】) |
| C 原民喜 (作品【25】・説明【26】) | D 二葉亭四迷 (作品【27】・説明【28】) |
| E 太宰治 (作品【29】・説明【30】) | F 尾崎紅葉 (作品【31】・説明【32】) |
| G 宮沢賢治 (作品【33】・説明【34】) | |

【作品名】	1	2	3	4
1 津軽	2 夏の花	3 小説神髓	4 春と修羅	
5 蟹工船	6 金色夜叉	7 浮雲		

【説明】

- 1 日本プロレタリア作家同盟の中央委員として活動中に、治安維持法違反などで入獄した。
- 2 一九四四年、妻を亡くし、四五年、広島で被爆するなどの体験を静かな語り口でまとめ上げた。
- 3 仏教に傾倒して上京、帰京後は農業の指導にあたりながら、童話や詩作に取り組んだ。
- 4 プライドとコンプレックスの葛藤から生み出す多彩な作品。破滅的傾向の無頼派。
- 5 山田美妙らと「硯友社」を作り、近代日本最初の純文学雑誌「我楽多文庫」を創刊した。
- 6 小説の文体に初めて、画期的な言文一致体を採用した。
- 7 写実主義という新しい文学理論を主張し、近代文学の基礎をなした。

【三】 次の各語句に打ち消しの接頭語(非・不・未・無を加えて意味を反対にせよ。「非」を加える場合は「1」、

「不」は「2」を、「未」は「3」を、「無」は「4」で答えること。(解答番号は【35】〜【41】)

- A 成熟【35】 B 理解【36】 C 公式【37】 D 愛想【38】
E 名譽【39】 F 解決【40】 G 合理的【41】

【四】 次のA〜Hの対義語として、()の中に入る漢字を選び番号で答えよ。(解答番号は【42】〜【48】)

- A 形式↑↓内() 【42】 B 普遍↑↓() 殊【43】 C 協調↑↓() 他【44】
D 絶対↑↓() 対【45】 E 未知↑↓() 知【46】 F 精神↑↓() 質【47】
G 不易↑↓() 行【48】

【漢字】

- | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 結 | 2 | 進 | 3 | 物 | 4 | 流 | 5 | 容 |
| 6 | 特 | 7 | 相 | 8 | 排 | 9 | 既 | | |

【五】 次のA〜Gの空白部()に入る漢数字を選び、番号で答えよ。(解答番号は【49】〜【55】)

- A ()の菖蒲^{あやめ}、十日の菊【49】 B 子は()界の首枷^{くびなせ}【50】 C ()海波静か【51】
D 親の光りは()光り【52】 E ()切^{じん}の功を一簣^{いっさい}に欠く【53】 F 岡目()目【54】
G 人を呪わば穴()つ 【55】

【漢字】

- | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 一 | 2 | 二 | 3 | 三 | 4 | 四 | 5 | 五 |
| 6 | 六 | 7 | 七 | 8 | 八 | 9 | 九 | | |